

とまちローカルサミット G8セッション

テーマ：「持続可能な地域と食」



(M) 長野 麻子

大臣官房情報課 企画官

<略歴>

- ◆ 1971年愛知県安城市(日本のデンマーク)生。愛知県立岡崎高校卒、
- ◆ 東京大学文学部フランス文学科卒業後、1994年 農林水産省入省
- ◆ 1999～2001年 フランス留学(パリ第1大学及び第5大学で修士号取得)
- ◆ 2002年に大臣官房企画評価課企画官(バイオマス・ニッポン総合戦略担当)、2003年国際部国際調整課課長補佐(FTA/EPA担当)に着任
- ◆ 2005年消費・安全局動物衛生課課長補佐(鳥インフルエンザ、米国産牛肉輸入問題担当)に着任。
- ◆ 2006年～2008年(株)電通ソーシャル・ネットワーク室出向し、2008年4月から現職。



(K) 村田 泰夫

農林漁業金融公庫理事
明治大学農学部客員教授
財政制度等審議会委員

<略歴>

- ◆ 1945(昭和20)年、東京生まれ。
- ◆ 北大農学部農業経済学科卒業。1969年朝日新聞社に入社。経済部記者として財政、金融、農政問題などを担当。東京経済部次長などを経て、論説委員、編集委員として、経済政策のほか農政、環境問題を担当した。
- ◆ 2005年1月定年退職。同4月から農林漁業金融公庫理事として経営改革の道筋作りに取り組む。2005年3月の新しい「基本計画」の策定に食料・農業・農村政策審議会専門委員として参画。



安井 美沙子

東京財団政策研究部ディレクター
兼研究員

<略歴>

- ◆ 上智大学法学部を経て、ニューヨーク大学ジャーナリズム学部卒業。マッキンゼー・アンド・カンパニー、ミスミに勤務後、マーケティング・コンサルタントとして独立、民間企業や地方自治体のコンサルティングにあたる。他に岩手県「食と農の研究会」委員、大阪市役所・市政改革本部調査員、(財)日本都市センター「地域ブランド戦略研究会」委員等も務める。現在は東京財団政策研究部ディレクター兼研究員。
- ◆ 著書『ほんとうの「おいしい」を知っていますか?』(英治出版:2007年5月)、寄稿『新「地域」ブランド戦略』(日経広告研究所:2007年10月)等。



田中 宗浩

佐賀大学農学部 生物環境科学
科 准教授

<略歴>

- ◆ 大学での研究成果は、実際の社会にフィードバックして実現することが大切だと思っています。
- ◆ 地域内(市町村レベルの小さな集合単位)を中心にして資源循環型の事業を展開することにより、様々なメリットを生み出すことができます。地域にメリットをもたらす循環技術確立するには、地域の特性に適応した様々な社会技術を繋げ、同時に、人の「つながり」を生み出すことが大切だなあと感じています。
- ◆ 教育研究:施設園芸、農産物の流通や貯蔵技術、バイオマスの資源利用に関する研究開発に従事。
- ◆ 佐賀大学の産学官連携部門、地域貢献部門、知的財産管理部門も担当。



福田 俊明

NPO法人伊万里はちがめプラン 理事長

<略歴>

- ◆ 生ごみを市民の税金で焼却処分するのは“もったいない”と気づいた市民や飲食店、旅館業の有志が「生ごみを宝に」と立ち上がったのが1992年、環境保全型啓発運動や微生物の培養実験などを経て2000年に生ごみ堆肥化実験プラントが完成、将来大型生ごみ堆肥化プラントの実現を想定し微生物による本格的な生ごみ堆肥化実証実験を開始する。
- ◆ 2003年NPO法人として認定を受ける。
- ◆ 生ごみの堆肥化、廃食油の燃料化、菜の花プロジェクト活動等の実践的体験を通して、小中高校生に対する環境学習、市民、行政、企業等に対して環境保全啓発(地球温暖化防止)運動を展開している。
- ◆ 各方面にこれまでの活動が認められ「元気大賞2002」「環境水俣賞」等数々の賞を頂き、2007年10月、食品リサイクル推進環境大賞の「奨励賞」を受賞。最近では「食と環境・エネルギー・伝統陶芸、文化の薫る伊万里の旅路プロジェクト」協議会を立ち上げ、環境と教育、観光が一体となったエコツーリズムの実現を目指している。



宮嶋 望

新得共働学舎 代表

<略歴>

- ◆ ‘51年9月4日 前橋生まれ、東京育ち。
- ◆ ‘74年3月 自由学園最高学部卒業、卒後論文は植物生態学で「森の植生遷移」。
- ◆ ‘78年6月 ウィスコンシン大学(マディソン)の畜産学部(Dairy Science B.S.)を卒業。
- ◆ ‘78年6月 北海道上川郡新得町に入植、共働学舎新得農場を開設。
- ◆ ‘04年10月 第3回山のチーズオリンピック(スイス)で「さくら」が金賞。
- ◆ ‘06年8月 NPO共働学舎が設立。副理事長に就任
- ◆ ‘07年5月 Monde Selectionで「さくら」、「笹ゆき」が最高金賞を受賞
- ◆ ‘07年10月 第5回山のチーズオリンピック(ドイツ)で「さくら」が金賞、
「エメレット」が銀賞を受賞。国際貢献賞もあわせて受賞。
- ◆ ‘08年4月 Monde Selection で「笹ゆき」金賞受賞、「ラクレット」銀賞受賞。



川崎 博史

帯広商工会議所青年部 副会長
(株)川崎米穀 常務取締役

<略歴>

- ◆ 帯広商工会議所きってのイケメン副会長。
- ◆ 腕っふしも強く、兄貴。
- ◆ 女性ファン、多数。
- ◆ でも、お米にはうるさい。



有賀 雄二

勝沼醸造株式会社 代表取締役

<略歴>

- ◆ 1955年5月23日 山梨県甲州市勝沼町 生まれ。東京農業大学 醸造学科 卒。
- ◆ 山梨県ワイン酒造組合 副会長
- ◆ 社団法人 山梨法人会 勝沼支部長



岡本 良知

(株)岡本亀太郎本店 専務取締役

<略歴>

- ◆ 昭和43年広島県福山市生まれ。
- ◆ 平成4年フントレイ大学(米国)卒後、同年合同酒精(株)に入社。基本的な醸造を経験後、営業マンとして東京～九州を経験。
- ◆ 平成12年家業継承の為、(株)岡本亀太郎本店に入社。温故知新の精神で伝統の「保命酒造り」に更に磨きをかけ、平成17・18年に相次いで保命酒仕込みの梅酒「梅太郎」・杏酒「杏子姫」を発売。伝統酒に新たな息を吹き込む。
- ◆ 平成19年には同商品が国の認定する「地域資源活用新事業展開支援事業一号認定」に選ばれ、伝統文化・産業の継承に努める。

セッションの様子



テーマ：「持続可能な地域と食」

セッションキーワード

- ◆ 「いのちと農」の循環の輪が壊れている。食料自給率39%という数字がその象徴。
⇒国内の地域資源を十分、生かしきっていない。
- ◆ 国内農業の荒廃が進んでいる。かけがえのない(無限大の)多面的機能が損なわれている。
⇒地域社会そのものの維持、人と人、人と自然のつながりの維持が難しくなっている。
- ◆ 「外国から食料を買えばいい」という政策が、世界一のフードマイレージ(9000億トン・キロメートル)に。
⇒世界の食料危機と地球温暖化を加速している。

テーマ：「持続可能な地域と食」

志民による具体的アクションプログラム

- ◆ 日本は、外国の農地を1245万ha(日本国内の農地は465万ha)借り入れ、全国の一般家庭での年間水使用量の約5・6倍に相当する627億立方mの水資源(バーチャルウォーター)を輸入していることと同じ。
⇒外国頼みとせず、食料の国内供給力を向上させる。
- ◆ 農業は食料供給だけでなく、持続可能な資源循環の維持、自然生態系の維持、美しい景観、地域文化の継承、自然と共生する価値観の共有などの機能を果たしている。
⇒志民と連携して国内農業を維持する仕組みを創設する。
⇒消費者として日本の農業、食を買い支える
⇒本物の味がわかる味覚教育、食品の値段の意味を知る教育を行う
- ◆ 自国優先の利害のぶつかるグローバル・サミットだけでは、世界の食料問題を解決できない。
⇒志民それぞれが地域の資源をいかし、食と農林水産業のためにできることを実践し、うしなわれたつながりを取り戻すことで、持続可能な社会を構築する